登録有形文化財

村松家住宅主屋・南家蔵修理保存事業報告書

山梨県南アルプス市桃園615－1番地, 他

平成18年3月

国・登録有形文化財

村松家住宅修理保存事業

主屋・商家蔵修理保存事業報告書

平成 18 年 3 月

山梨県南アルプス市桃園６１５番地・他

目 次

2

序 「人はどうして建築を遺そうとするのか？」 3

時の中のふるさと　～桃園・村松家姉妹たちとの出会いより～ 3

口絵 4～7

村松家住宅主屋・商家蔵保存修理事業の経緯について 8
案内図 8

第1章　修復前調査
1－1　古図文献調査、建物概要, 造営経緯 9～10
1－2　年表・幕末期から明治維新、初期における村松家先祖と地域社会との関わりの歴史 -1・家系図 11
1－3　調査・改修前の村松家 12～19

第2章　修復内容 20～21
2－1曳き屋（本事業前H 15 年 3 月 1 日～ 13 日～ 3 月 31 日の記録
－1－1第1工程 (H 15 年 3 月 1 日～ 13 日)
－1－2第2工程 (H 15 年 3 月 14 日)
－1－3第3工程 (H 15 年 3 月 23 日)
－1－4第4工程 (H 15 年 3 月 23 日午前、午後～ 31 日)
2－2 修復方法と耐震補強（修復に対する姿勢：保存と耐震補強の狭間にて）
－2－1構造補強の方針（耐震性能の強化） 22
－2－2地盤の地耐力測定 23
2－3主屋増築・商家蔵移設耐震補強 (仕様書・実施設計図集）
－3－1主屋増築・商家蔵移設耐震補強図集 24～ 26
－3－2商家蔵軸組・耐力壁、耐震金物施工実施記録 27～ 28
－3－3主屋・商家蔵実測調査、改修実施詳細設計図集 29～31
－3－4主屋補強工事実施設計図集 32～ 37
－3－5主屋構造補強実施施工実施記録 38
2－4扉　商家蔵北面1階開口部扉・復元プロセス 39～41
2－5左官　漆喰壁の修復―左官の手業（伝統的な手法と新材との調和）
－5－1　荒壁壁・土中・漆喰の修復 42～48
－5－2　海鼠壁修復復原 49～50
2－6特殊補修　奥座敷（黄金の間）中座敷 (瑠璃の間) 壁の修復（現状維持を出来るだけ保持できる手法)
－6－1脇座敷 10 畳間壁―ラピスラズリ砂壁、広縁壁―繊維入り砂壁補修仕様書（森敏夫） 51～52
－6－2奥座敷　絵襖修理仕様書（1）　玉松堂表具店　安藤　弘文 53～54
－6－3奥座敷障壁画修理仕様書（2）　玉松堂表具店　安藤　弘文 55～56
2－7装飾金物　釘隠し素材調査・分析・復原　仕様書 57～60
2－8書院造（奥座敷・脇座敷・広縁）書院造新民家・想いを空間に
－8－1清吟書屋の空間構成（書院造民家・新しい時代への想い・黄金の間、瑠璃の間、梶の葉「結界」・素材が語る階層的空間構成 61～65
－8－2清吟書屋座敷の素材と構成　（壁、床、天井の修復過程で発見されたこと。） 66～69
－8－3清吟書屋は人間舞台 69
第3章　村松家の歴史
3－1－1　村松家・時代の主人公 70～71
3－2　村松家・時代の主人公３－２村松家住宅・建築の変遷「近世・近代・現代」
＜住まいの自分史＞・・『暮らしの生脈（主人公が生きた脈絡）・ＤＮＡ』 72～78
3－3　物語「村松家に生きた人々」～　(1)　村松健斎・勝格弥・村松正次郎とその時代～ 88～98
3－4　桃園・村松家『暮らしの生脈ＤＮＡ』年表（別冊）＜住まいの自分史年表＞

第4章 村松家・調査資料「収蔵品等・医用具・生活用具スケッチ集」

4－1　桃園・村松家「モノから観る歴史・医用具・生活用具スケッチ集」（村松家所蔵品は別添掲載） 99～105
4－2　拓本集 (一部掲載、他は別添掲載))、和釘、竹釘 106～108
4－3　工事関係者 109
4－4　参考文献

第5章　村松家の草木「歳時記」（別冊・出版予定）
5－1　薬草とお花
5－2　樹木

国・登録有形文化財　村松家住宅銘版

序　「人はどうして建築を遺 (のこ) そうとするのだろうか？」
人は人生という旅に出かけ、迷い、戸惑い立ち止まり、ふと想う･･･誰かに聞いてもらい、信頼する友人に問いかけ、救われて我をとり戻す。それでも自分の旅は、自ら行く先を決めることとなる。
心のおもむくまま、また彷徨・・・。そんな時、はるか懐かしい光景に出くわして、あたかもここにいたかのような不思議な気分になることがある。
いま生きている自分の想いは、遥か記憶の中で形成されたＤＮＡ（遺伝子）が感じているのであろうか。
各時代を精一杯生き抜いてきた遺伝子は、環境に順応し、適応して、しなやかに生きることをしてきた。懐かしく、やすらぎ、ほっとするのは、かつて何代か前に経験した時代環境に身を置いた遺伝子を呼び起したのであろうか？
ヒトは次を生き抜くため、置かれている環境を学習し、記憶して創造的な人生を再構築するための遺伝子を呼び起こし「先見能力」を身に着けていく。
今ある時空の都市や建築空間は､漂う光景の 1 コマであるが､その連続され映し出されたシークエンス（継起的連続性）の中にいる " 素直な己の風景 " は、心の赴くままに動く遺伝子（意思）を納得させる。ここでの懐かしく、やすらげる体験は、明日への意欲を孕んだ想いへと変る。
ヒトは重層化された記憶の中で暮らし､語り伝え､強い意志を持ってその記憶を守り育てて生きてきた､それを生脈 (せいみゃく・生きた脈絡）という。
流行や習慣のように無意識に受け継がれたものと、強い『意志』を持って意識的に存続させようとするものとは大きな違いがある。伝統は護るためにあるのではない、明日を創造的に生きるために護るのである。でなければ、伝統の中で埋没した息苦しい人生を送ることになってしまう。
強い意志により遺された空間を体験することで、かつての創造的な空間の生成に関わったヒトやモノの履歴を通して、誰でもが " 生脈 " を五感に感ずることができる。
ヒトは生き物である、生まれ育った時代に回帰したくなる。そのような遺伝子が遺されている建築空間を大切に使い込み、保護していくことは、まさに今を生きている私たちの " 美しい生脈 " の履歴として記し、後世の迷いに答えられる遺伝子の「先見能力」を遺すこととなるのである。
遺っているものしか美しいと感じられないほど、現代のモノ多様性の中に本物の美を見出すのは難しい・・・・・

平成 18 年 3 月　　久保田　要

時の中のふるさと～桃園・村松家姉妹たちとの出会いより

『桃園の家は私のふるさと父母の記憶の蔵、だから遺したい。』

私の帰るところ。
私の今を創ってくれたところ。
私を送り出してくれた家。
私を育ててくれた道具たち。
私の強い意志を育んでくれたところ。
私を自立できるように・・・
私達の生活の想い出。

この家は人がいっぱい出入りしていた・・・
ボロ電は横に揺れながら走っていった。
桃園停車場と私の家
実家のお風呂は懐かしい・・・湯気の奥、窓のステンドグラスに見入っていた・・・
『私は今ここにいるのだけれど･･･　ふるさとは遥か遠く、時のかなたに･･･私の思い出の中に･･･』
いまこのふるさとに立つ・・・
はるか遠きにあった思い出が走馬灯 (そうまとう) となって蘇 (よみが) える・・・

『桃園の家は私たちの精神的なバックボーン』

主屋・商家蔵近景

撮影：標　克明

修復前・主屋・商家蔵

修復前・商家蔵

撮影：標　克明

曳き屋・修復後　商家蔵

撮影：標　克明

主屋・商家蔵近景　撮影：標　克明

修復前・主屋 2 階アーチ枠・窓（木目描き痕跡）

修復前・商家蔵北、海鼠壁痕跡　撮影：標　克明

曳き屋・修復後

商家蔵北、土蔵扉、海鼠壁　撮影：標　克明

商家蔵、南土間－１　撮影：標　克明

修復前・商家蔵土間

商家蔵、南土間－２　撮影：標　克明

修復後・商家蔵　壁仕様展示

土蔵扉・海鼠壁痕跡展示

主屋・土間、寄付き（大黒柱・恵比寿柱）

主屋２階・耐震補強　撮影：標　克明

商家蔵」・１階南部屋（20 畳）

商家蔵」・１階北部屋（20 畳）　撮影：標　克明

主屋奥座敷 10 畳・壁修復後

撮影：標　克明

主屋 1 階次の間 10 畳・壁修復後

撮影：標　克明

村松家住宅主屋・商家蔵保存修理事業の経緯について

私が村松家に関わるようになったのは、平成 12 年のまだ肌寒い春、ＮＨＫ甲府ＴＶ放送（山梨における近代遺産建造物の放映）をご覧になられていた村松家三女並木昭子様よりお電話をいただいてからである。「道路拡張のためお蔵が無くなってしまうの・・・」と施主次女村松映子様と共に相談された。

民家再生ブームの中、いち早く再生業者がお客を連れだって、何回か訪れ、道路の収容されるお蔵の古材を売って、その資金で主屋を再生することを進められたそうである。単なる古民家再生ではなく、お蔵を遺すためのとの主旨の違いを曲げなかったようである。

どうして遺したいか人それぞれである、村松家の姉妹たちはちょっと違った価値観をこの家に持っている。自分たちの生きてきた時間をこの家に遺したいとのことである。つまり魂が入っていないモノだけ遺しても無意味であることであった。これから生まれいずる記憶を次世代に受け継ぐため、それを土壁に塗りこめ、商家蔵の真っ白な漆喰壁には昔の土間屋根のラインを描き遺し、古い材では 170 有余年前の埃に刻まれた材に向き合い、出来るだけ修復プロセスに施主自ら関わっていただいた。

商家蔵と土地の収用は押し迫っていた。国への登録有形文化財指定と数々の関係者のお手を煩わせた。中でも、文化庁の堀勇良氏には直接来訪願い、貴重な発見や調査のあり方を指導してくださり、山梨県の文化財審議委員羽中田壮雄氏、南アルプス市（旧櫛形町）教育委員会の皆様や担当の保阪太一氏、市（旧櫛形町）の文化財審議委員の方々、国や町の用地官の皆様には大変なご協力を賜った。また修理保存の技術指導や修景方法は、（財）文化財建造物保存技術協会の中内康雄課長に直接ご指導を仰ぎ適切な助言をただいた。

三年間に渡る修復事業の間、歴史・文献調査では美術家（文筆家でもある）高橋辰雄氏にお願いし、氏の幅の広い見識と分析力をして、この地域の生活史や場所の存在意味と村松家の関係を通し、誇れる地域のアイデンティティーとして認識できる（遥か昔から遠くを見据えた血が流れ、修復途中拝見できた「信虎の書状」などからは、古より商家として存在し、地場の晒し柿や小梅の生産販売許可などが記されていたこと）深みを持たせられた。また写真家の標克明氏には、ディテールに渡り機動力と美意識を戴いた。他、工事に際し連日連夜現場にて責任を持って管理いただいた鈴木典央棟梁を始めとする職方衆の皆様には敬服の念に堪えない。

また、施主の後継者長女村松啓子ご夫妻様には修復現場での決断や、実行に多大なるご協力とご援助をいただいた。あらためて、関係者の皆様の厚い信頼に包まれた事業を体験できたことに感謝し、お礼を申し上げるしだいである。

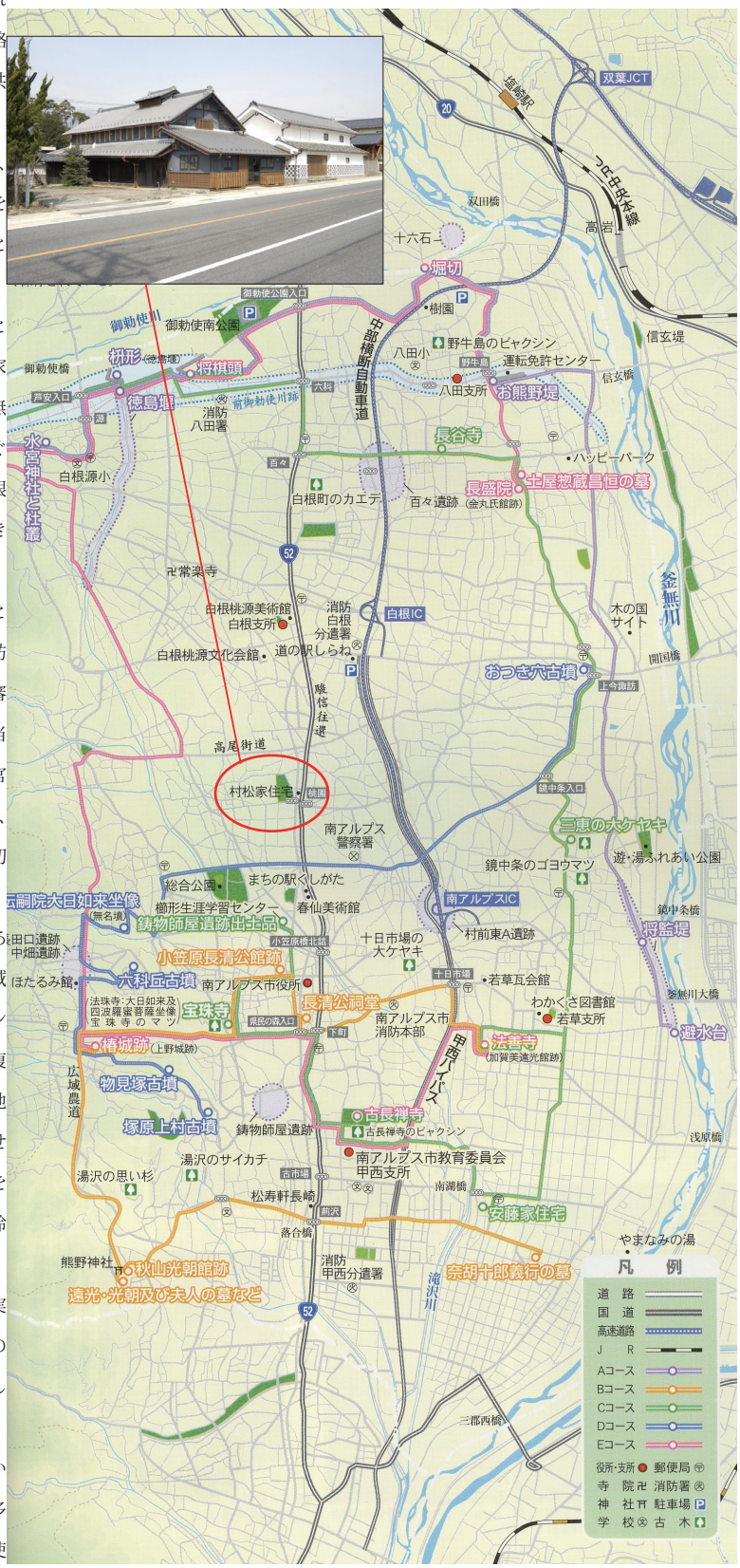
今事業の後、駿信往還沿いの塀の修景や文庫蔵、厠、庭（医師健斎が蒔いたか、薬草となる植物や古木が潜在植生している）などの整備を控え、多様な活用を地域の名士達や次世代を担う若者達の生涯学習の場として使用・活用されることや、地域の枠を飛び越えた関係諸外国の研究者等のステイ（宿泊）の実現を、施主の長期的な望みとして、ここに併記する。

株式会社　ケービーケー久保田一級建築士事務所

代表取締役　一級建築士　久保田要

国・登録有形文化財　村松家住宅

山梨県南アルプス市桃園 615 番地



（南アルプス市歴史・文化財見所マップより転載）

案内図　山梨県南アルプス市桃園 615 － 1 番地